

校内研究について

1 研究主題

地域を知り、自ら調べることの楽しさを実感する児童の育成
～主体的に探究的な学習に取り組む生活科・総合的な学習の時間を通して～

2 主題設定の理由

絶え間ない変化や技術革新が進む今日、子どもたちが社会で活躍するころには、変化の大きい予測困難な時代を迎えていると予想されている。このような時代を生きる子どもたちは、一人一人が社会の担い手として、様々な変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め正しく情報を活用したり発信したりできることが求められている。学校教育では、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、自ら考え、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。つまり、学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」を付けることが今後も求められているのである。

本校の子どもたちは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組むことができている。しかし、日常生活や地域などの事象の中から、自ら問いを見出すこと（課題の設定）や集めた情報をもとに自分の考えを形成すること（整理・分析）に関することについては、課題を抱えた子どもたちも少なくない。今後、激しく変化する社会の中でたくましく生きぬくためには、子どもたち自身が主体的に課題と向き合い、自らの力や他者との協働によって問題を解決する力、考えや改善点を発信する力を育成することが必要であると感じる。

総合的な学習の時間は、生活の中から見いだした疑問や課題を自分なりに調べ、その過程の中で得られていく学びを通して、自らの生き方を考えていく学習である。また、その過程を通して、物事の本質に触れたり現実の壁にぶつかったりしながら多くの学びを得ることができるものである。本校がある二里町は、豊かな水と緑に囲まれた自然あふれる美しい町であり、食と農に係る産業に富んだ町でもある。また、歴史と文化に関連する素材が近隣に多く存在するなど、学習素材には事欠かない。この自然豊かな二里町を、人との関りの中で学び、学ぶことの楽しさを味わうことができれば、総合的な学習の時間が目指す探究的な学習へと繋がり、さらに地域への愛着を育てることもできる。以上のことから、本研究テーマを設定した。

3 研究の目標

地域を知り、自ら調べることの楽しさを実感させるために有効な、単元や授業の展開を明らかにする。

4 研究の仮説

地域を教材とした単元開発や子どもたちの「知りたい」「調べたい」気持ちを引き出すような授業を行うことで、自分たちの地域のことを知り、自ら調べることを楽しいと実感する児童を育成することができるであろう。

5 研究の内容と方法

(1) 年間計画と授業作り、理論研究

- ・ 学年部会（低学年・中学年・高学年）に分かれ、子どもたちが探究的な学習のよさを理解できるような、「生活科・総合的な学習の時間」「生活単元」で年間指導計画の見直し、教材開発をする。

- ・理論研修や講師招聘の授業研究を行い、単元開発、授業展開と手立てを具体化する。
- ・授業実践を振り返り、有効性について検証する。

(2) 学びを支える環境作り

- ・地域マップの作成など、学習の成果物の掲示。
- ・メンタリングなど職員が相談しやすい時間設定や環境を工夫する。
- ・学習規律の確立、生活のきまりの全校での共通理解・共通実践の徹底を図る。

(3) 児童の意識調査

- ・学期の初めと終わりに、児童の学習や生活に対する意識調査を実施し、その分析をして次の学期の研究に活かす。

(4) 職員の意識調査

- ・職員についても適宜アンケートなどで意識調査を実施し、研究に活かす。

6 研究の組織とその内容

(1) 組織の内容と役割

① 研究推進委員会

研究全体の方向・進め方の検討・修正をし、研究の円滑な運営を図る。

② 全体会

研究内容や方法についての検討し、共通理解をする。全体授業研究会を実施し、その後の授業改善や学級経営に活かす。

③ 学年部会

共同で教材研究をしたり指導案の検討をしたりして授業実践を行い、研究の具体的実践を進め、児童の資料などの収集整理をして、研究の成果の記録と研究資料の提供等を行う。

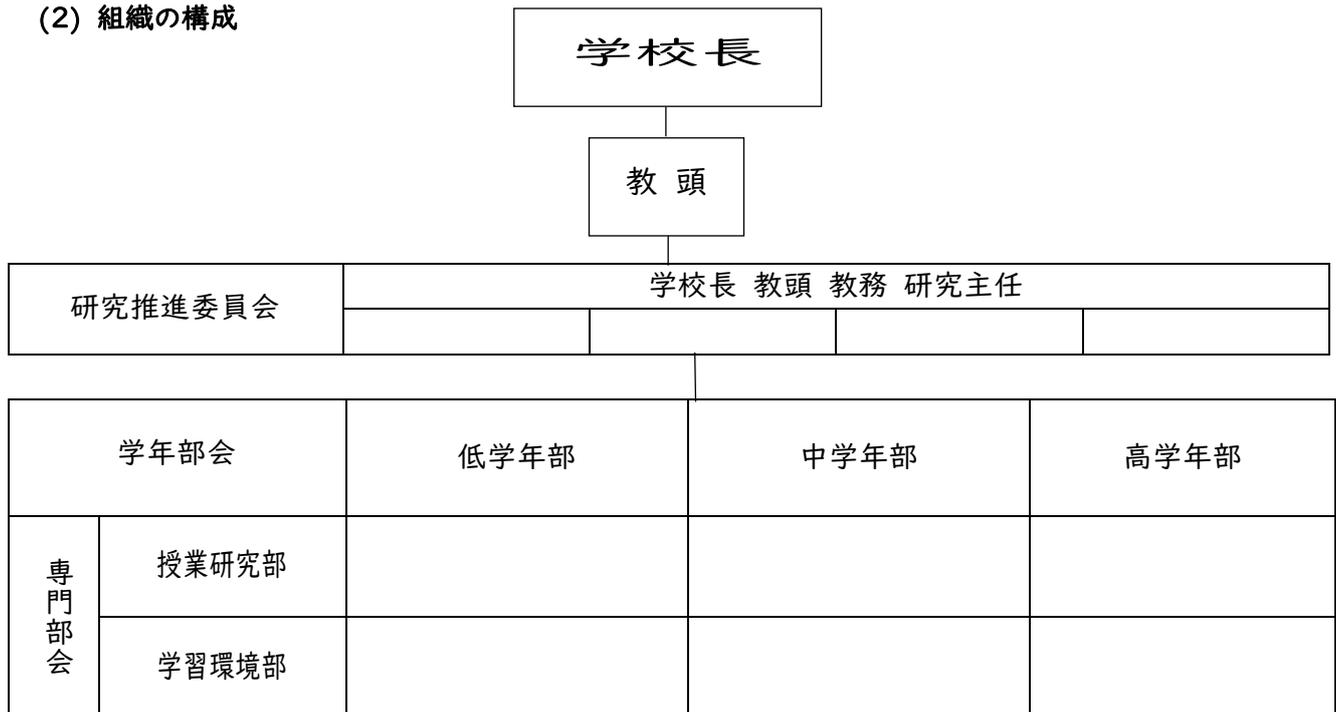
④ 専門部会

授業研究部……生活科・総合的な学習の時間について単元開発や授業改善についての理論研究を進め、推進を行う。

学習環境部……校内環境の整備や学習規律、生活のきまりの共通理解、共通実践を促す。

児童や職員の意識調査の分析、考察をして研究に活かす。

(2) 組織の構成



7 研究の計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の成果と課題(5月10日締め切り) ・総合的な学習(生活科)の年間計画の作成と検討(5月10日締め切り)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組についての共通理解(連絡会で)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の計画(だれが、いつするのか) ・メンタリング(6月5日~7月4日)
7月	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・講師招聘による理論研究? ・学力向上に係る校内研修 ・専門部による計画の実践 ・学年部による共同教材研究や指導案作成
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会(G研、全体研)?(低・中・高)
10月	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・県生活科・総合的な学習の時間研究大会(有田中部小)11月7日(木) ・授業研究会(G研、全体研)?(低・中・高) ・メンタリング
12月	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会(G研、全体研)?(低・中・高)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部会のまとめ ・専門部会のまとめ ・メンタリング
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のまとめと来年度の方向性について